

皆さん、初めまして。セリアイバーセンと申します。

私はノルウェー人として、登山が好きで以前から海外でも登って見たかったです。そこで、昨年ご来光を見るために富士山に登ることにしました。ご来光とは富士山の頂上から見える初日の出のことで、それは決して忘れられない息を呑む光景でした。これから、富士山を登った体験について話したいと思います。

富士山は3776メートルの活火山でとても高いのです。登る時はしっかりしたブーツを持って、ゆっくり食事をとって準備していました。座ってから立つだけでも気分が悪くなってしまって、高さに慣れるためによく休んだ方がいいのです。

登りながらすれ違う人にたくさん挨拶しました。日本人は人に迷惑にならないように声をかけないところがノルウェー人と同じです。しかし山登りの時は、ノルウェー人はちゃんとお互いに挨拶するべきです。日本も同じだということを知って驚きました。また、私は登り途中に、他のことにも気づいたのです。

例えば、この前日本に留学してその時のことを思い出しました。留学は楽しかったのですが、なかなか慣れないという気分も時々ありました。しかも日本語が通じないときもありましたし、あるいは母国ノルウェーから離れていることもあり、私は周りとは違うということを常に感じていました。しかし富士山に登っているときは、たくさんの人が応援してくれたことに感動しました。皆同じ、富士山の登頂という目的を達成したい人たちです。

3000メートルに着いたころ、何度止まっても気分が上がりなかつたので、一步一步頑張って、負けないように一生懸命歩き続けていました。300メートルほど歩いた後、山小屋に少し寝て、皆さんとご飯を食べて色んな話をしました。隣にいたアメリカ人は富士山を登るためだけに日本まで来て、まさに夢を叶えようとしている人でした。偶然にカメラマンさんもいて、その人は富士山の美しさがとても好きで、登るのはもう10回目だったらしいのです。富士山は一体なぜこんなにも人を魅きつけるのでしょうか。

暗い夕方になっても登り続けて、皆ヘッドライトが必要でした。上に登る道を見上げた時、人々のおかげで照らされていて、それは天国への道みたいでした。下にもいくつかの町の光を見ることができ、私は、世界の頂上にいるようでした。頂上に近づいて空が明るくなり始めたので、太陽がそれから少しずつ現れ、皆は喜びで声を出しました。私はこんなにたくさんの人が上まで登ることができたことを実感して、ただとても嬉しくて泣きました。辛い旅でしたが、太陽を見上げてエネルギーをたっぷりもらった気がして降りて始めました。

帰りのバス座席が取れなくても私たちは床に座って眠るほど疲れていました。本当に難しい登山でしたが、多くの人に出会って、素晴らしい風景を見られて、貴重な経験をしてよかったのです。残念ながら山小屋で出会ったアメリカ人は寝坊してご

来光を逃したらしいです。なぜなら、下山中にアメリカ人は頑張っただけでまだ登っているを見たのです。次の機会に登ったときに見られたらいいですね。皆さんも是非富士山に登ってみてください。

ご清聴ありがとうございました。